

令和4年度町政懇談会記録

- 1 会議の名称 令和4年度町政懇談会（瀬平区）
- 2 会議日時 令和4年2月3日（金）午後7時から午後8時40分まで
- 3 開催場所 瀬平地域振興センター
- 4 出席した者の氏名
 - (1) 瀬平区 参加住民21名
 - (2) 執行機関 町長 菌田靖邦、副町長 秋元伸哉、教育長 山下 斉
(出席課長) 企画課長 大村、会計課長 北原、くらし環境課長 梶山
(書記・庶務) 教育総務課 室長 佐々木、主幹 高村、建設課 主幹 酒井
(その他職員) 健康福祉課長 森下、情報政策課長 坂下
- 5 内容
 - (1) 行政からの報告（町長・副町長・教育長）
 - ・これからの取組みと今後のまちづくりの方針
 - ・デジタル技術を活用した情報サービスの向上
 - ・町の教育方針について
 - (2) 町民の皆さんとの意見交換
- 6 発言の内容
 - (1) 事前質問に対する回答
 - (問) いやしの里診療所と県立静岡総合病院との連携は当初の計画（遠隔診療）を実施して欲しい。その後、町内診療所へ展開していただきたい。
 - (答) 令和4年度については、いやしの里診療所において、静岡県立総合病院との間で、【循環器内科】の遠隔診療を毎月第1・3・4木曜日に【糖尿病・内分泌科】の遠隔診療を毎月第2木曜日に【頸椎外科】の遠隔診療

を毎月第2金曜日に実施しています。来年度においても継続して実施できるように現在調整中です。なお、町内の他の診療所における遠隔診療の実施については、現状を考えると大変厳しいものと考えております。

(問) 台風等による荒天時には同報無線のスピーカーの音が家の中では聞き取れない。かわねフォンでの同時配信にプラスして反復配信を自動的に行うようにシステムを改良することが必要であると思われる。9月の台風15号の時は「高齢者避難指示(警戒レベル3)」が出されていても聞き落とした人は相当数あったようである。

(答) 現在の“かわねフォン”も設置当時としては新しい機能を備えた機器でしたが、設置後7年が経過し、デジタル化も進み、今では物足りなさを感じるかもしれません。ご要望の『反復配信』の機能ですが、現在の機器に追加することはできませんが、緊急放送以外は放送した内容を“文字化”して送信しているため、画面で確認できますし、音声ボタンを押すことにより、その文字を“自動音声”で聞くことができます。

(問) かわねフォンで複数の人が会話できるようにシステムを改良することができないだろうか。これによって、それぞれが在宅で打ち合わせや会議が可能となるし、サロンそのものが展開できる。複数人の同時会話ができれば、多岐にわたりかわねフォンが活用可能となり利用価値が高まるものと思われる。

(答) 『複数人同時会話』ができれば機能的には大変便利だと思いますが、現在の通話の仕組みとして、引き込み線は各家庭に1回線であるため携帯電話のように同時通話することができません。かわねフォン自体も古くなり、今後は故障時の部品調達も難しくなることが予想されます。デジタル化も日々進化しています。今後のかわねフォンの在り方や機器更新・維持管理を含め、関係機関と協議していきたいと思っております。

(答) いきいきサロンは、高齢者の社会参加、引きこもり予防等を目的に、公民館等を集いボランティアが主体となって、各地区に設置されており、対面を基本としています。しかしながら、コロナ禍で「集う」ことが難しくなり、緊急事態宣言下では、かわねフォンのテレビ電話機能を活用し話相手ボランティアが「お元気コール」を実施したことはあります。

(問) 広島県安芸高田市の「高齢者見守り・安否確認」事業は、一人暮らしの人への呼び掛け安否確認を CBBS との連携で展開している。当町に於いても同様な事業がかわねフォンを活用して実施できないだろうか。

(答) コロナ禍において、町では訪問看護事業所の訪問看護師が、訪問日以外でも“かわねフォン”で連絡し、テレビ電話機能を利用して健康観察を行っていました。また、高齢者の見守りについては、一人暮らし高齢者は、希望により緊急通報システム（電話回線によるシステム）を設置し、定期的に委託業者からの安否確認を行っております。（以前、かわねフォンの活用を検討しましたが、機能と費用を勘案し困難と判断しました。）その他、民生委員・児童委員、区長、いきいきクラブ、日赤奉仕団、ボランティア民間事業所等、様々な団体が「高齢者見守りネットワーク」として、平成 24 年度から日常적으로ご協力いただいております。

(2) 意見交換

(住民) 大井川鐵道の今後の運行状況を教えて欲しい。また、火の見櫓を今後どうするか教えて欲しい。不要ならば撤去し、必要ならば塗装をすべきではないか。

(課長) 大井川鐵道の台風 15 号による災害復旧について、現在大井川鐵道で家山～千頭間の被害額の積算を行っていますが、被害も大きくまだ時間が掛かるということで、バスの代行運転をしています。大井川鐵道から国、県、島田市、川根本町に要望書が出されており、大井川鐵

道の在り方等も検討しているところです。今後動きがありましたらご連絡させていただきます。

(町長) 火の見櫓の件ですが、区と消防団とで話し合いながら今後の対応について考えていきたいと思えます。

【回答】 地区と消防団で火の見櫓の必要性を話し合っただき、撤去を希望する場合は、地区から土木事業要望書を総務課に提出をお願いします。予算確保が出来次第、順次撤去していきます。

担当：総務課(56-2220)

(住民) 昨年の台風で道路に倒木があったり、地割れがあったりしたが、自治会で持っている防災倉庫にロープやバリケードを常備していれば自治会で設置し、早い段階で安全の確保ができる。防災倉庫にロープやバリケードを常備することはできないか。

(町長) 防災マニュアルの見直しも考えながらロープ等を配備できるように進めていきたいと思えます。

(住民) 台風 15 号の時の役場としての初動態勢はどう感じて、どのような対応をしたか。

また、LINE クーポンを行った率直な手ごたえや感想をお聞きしたい。今後、第 2 弾の実施などを考えているのか。

(町長) 台風 15 号については、町内の土木会社のおかげで素早く道路等を開通することができたので、初動体制としては速やかに出来たと思っています。また、自衛隊等の各関係機関とも速やかに連携ができたことも良かったと思っています。

LINE クーポンの件については、ご高齢の方も携帯を開いて利用しており、デジタル化が進んできていると感じています。

(副町長) LINE クーポンの利用等を通じて、町公式ラインの登録者が現在

7,600人程度となったことから、公式LINEは町の情報発信のひとつのツールとして今後も使っていきたいと思っています。

また、町外の方もLINEクーポンを使って町内で買い物をさせていただきました。クーポンの利用期間が年末年始ということだったので、台風災害や大井川鐵道が止まっている中、事業者には経済効果があったと考えています。

第2弾の実施につきましては、今回の取組の結果や成果を踏まえ検討してまいりたいと考えております。

以上